東京ストリートカウント ソーシャルインパクト報告書

2016△2017△2018△2019△△△2020

この報告書について

東京ストリートカウントは2020年のオリンピック・パラリンピック開催決定をきっかけに、ARCHが2016年1月、東京で初めて実施した市民参加型の夜間ホームレス人口調査です。昼間に行われている東京都福祉保健局保護課の「路上生活者概数調査」で把握されていない夜間のホームレス人口の実態を市民の力で明らかにし、市民一人ひとりがホームレス問題を考える機会を創ることを目的に、これまで4年8期にわたって実施してきました。

過去のいくつかのオリパラ開催地では、表面的な見栄えのためのホームレスの人々の追い出しが起きており、東京でも現在、同様のことが懸念されています。一方、オリパラ開催を機に包摂的なホームレス政策を進め、社会的レガシーを遺した都市もあります。(ロンドン、シドニー等)

本報告書は、2020年を迎える東京がホームレス問題に真剣に向き合い、多様な人々が共に暮らす都市への道のりを歩み出すことを願ってつくりました。東京の社会的レガシーを目指し、4年間の東京ストリートカウントが生んできたソーシャルインパクトをぜひご覧ください。

東京初・市民参加型夜間ホームレス人口調査

「東京ストリートカウント」を4年８期にわたり実施しています！

実施した期間

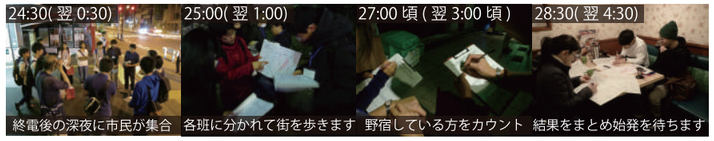
4年8期

2016冬 夏 2017冬 夏
2018冬 夏 2019冬 夏

実施日数

19晩3昼

東京ストリートカウントは2016年1月(冬期)に初めて実施して以来、半年に一度のペースで冬と夏に実施しています。調査当日は、深夜24:30に主要駅に市民が集合し、調査方法のレクチャーを受けた後、3～5人の班に分かれて2～3時間、割り当てられた担当エリアをくまなく歩いて調査します。3:30頃までに各班が指定された本部に戻り、集計を行い始発を待って解散です。



終電後の深夜に市民が集合　各班に分かれて街を歩きます　野宿している方をカウント　結果をまとめ始発を待ちます

こうした調査をこれまで19晩＋3昼(※昼間は河川敷調査)行い、都心部を中心に都内16区7市を調べました。

実施エリア

16区7市

東京ストリートカウント
区市別実施回数

- 5~8 回
- 2~3 回
- 1 回

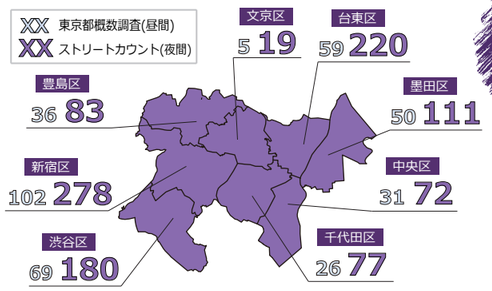
多摩川(大田区部分)
調査１回を含む

① 新宿区　⑤ 台東区　⑨ 港区　⑬ 中野区
② 渋谷区　⑥ 墨田区　⑩ 品川区　⑭ 武蔵野市
③ 豊島区　⑦ 千代田区　⑪ 目黒区　⑮ 三鷹市　⑰ 国立市
④ 文京区　⑧ 中央区　⑫ 江戸川区　⑯ 調布市　⑱ 立川市

東京ストリートカウントの実施 → 調査結果 → 市民参加 → 2020年東京へ

夜間は昼間の2.8倍　名前も人生もある1000名の方が見過ごされている！

2019年夏東京ストリートカウントの調査結果

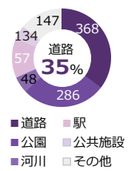


8区合計　都概数調査(昼) 378名　2.8倍　ストリートカウント(夜) 1040名

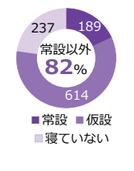
東京都全体の夜間推計 約2060名

昼間調査との差 約1020名

場所分類別集計



状態別集計



各期の詳細結果はこちらから

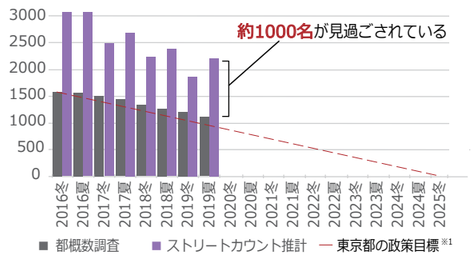
2019夏は左図の8区を調査し、1040名の人が一晩に野宿状態にあることを確認しました。これは東京都の昼間調査値378名の約2.8倍にあたり、都全体では一晩に約2060名が野宿状態にあると推計されます。

項目別の集計では、都調査に比べて道路や駅に寝ている人の割合、常設の小屋等以外の形(寝袋や段ボールなど)で寝ている人の割合が高く、夜間調査でしか捉えられない層が存在することが読み取れます。

ストリートカウント全8期の結果より、東京都全体の昼間調査値と夜間推計値とを比べると、政策上、毎回約1000名の人々が見過ごされている実情が見えてきます。都は2024年度末までに「全てのホームレスが地域生活へ移行」することを政策目標に掲げていますが※1、右のグラフに示すとおり、夜間の実態を直視することなく目標達成を謳うことはできません。

残念ながら、都行政はこれらの夜間調査値を承知しながらも、政策に反映しない姿勢を明示しています※2。数値だけの問題でなく、東京はそこにある一人ひとりの人生をないことにしてしまう都市でいいのかということを、私たちは多くの人たちと考えていきたいと思っています。

都調査(昼間)とストリートカウント(夜間)の比較



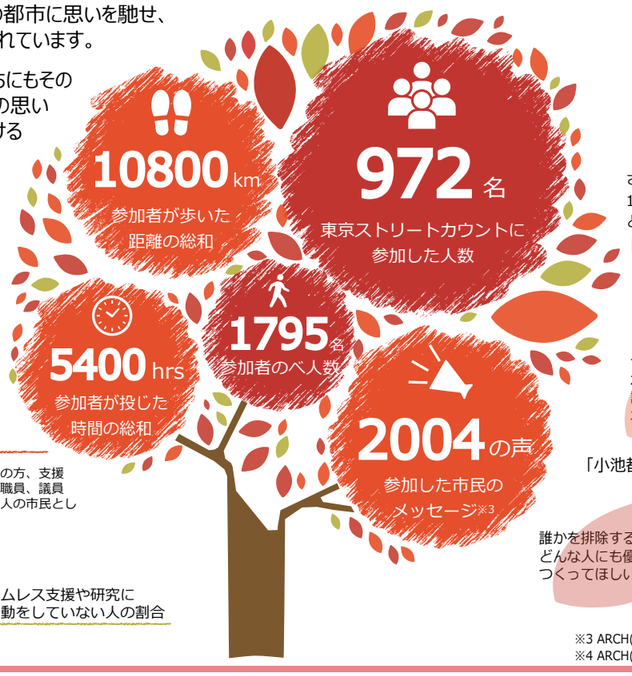
※1 東京都(2016)「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン」 p.144
※2 東京都(2019)「実施計画(第4次)素案に対するご意見と都の考え方」 pp.1-4

参加者972名。多くの市民のエネルギーと思いが集まった！

東京ストリートカウントは市民の力でつくられています。これまで972名(のべ1795名)の多様な市民が参加し、多大なエネルギーが投じられました。参加者の6割以上が普段ホームレス支援や研究に携わっていないと回答しており、この活動が多くの人々にとって自分のまちのホームレス問題を知り、考えるきっかけを生んでいます。

実際に深夜のまちを数時間歩いた市民が、ホームレス状態にある人々や東京の都市に思いを馳せ、たくさんのメッセージを寄せてくれています。

この 報告書を手に取る人たちにもそのメッセージが届き、一人ひとりの思いが集まって東京が変わっていけるよう、私たちは市民による活動を展開していきます。



どんな人が参加してるの？※3

30歳未満の割合
20代を中心に、中学生から60代の方まで幅広い年代が参加
56%

学生の割合
学生をはじめ、企業勤めの方、支援ワーカー、研究者、行政職員、議員など、多様な人たちが一人の市民として一緒に歩いています
47%

64% 普段ホームレス支援や研究に関する活動をしていない人の割合

「OOへ」参加者からのメッセージ※4

「ホームレスの人々へ」
お話しませんか？
さびしくないですか？私はたった1時間ほど歩いただけなのにとてもさびしくなりました…
同じ人間であると強く感じた。共に尊重して暮らし合ってゆきたい。

「大切な人へ」
やっぱり東京にはホームレスがいると認識させられました。本当だった。

「世界の人へ」
世界の他の地域での知恵を教えて欲しい。

「小池都知事へ」
誰かを排除するのではなく、どんな人にも優しい都市をつくってほしいです。

「東京で暮らす市民へ」
東京はもっと良い都市にできると思います。
一人ひとりが認識を変えるだけでも、それが合わされば東京は変わっていくと思います。

※3 ARCH(2018)「2018夏東京ストリートカウント報告書」
※4 ARCH(2018)「2018夏東京ストリートカウント 参加者の2004の声」

「知る・考える」から「知恵を出す」そして「行動」へ

あなたのアクション宣言を募集します！

2020年を迎えるいま、私たちは東京に芽生えた市民の思いやアイディアを形にする新たな取り組み、**「私のアクション宣言 東京2020」**を立ち上げます。

アクション宣言はあらゆる人々がホームレス問題の解決にコミットする社会を目指し、具体的なアクションを宣言の形で集めるしくみです。誰もがお互いを支え、多様性を受容しながら共に暮らす都市へと東京が変わることこそ、問題解決に必要だと私たちは考えます。あなたもぜひアクション宣言に加わってください！

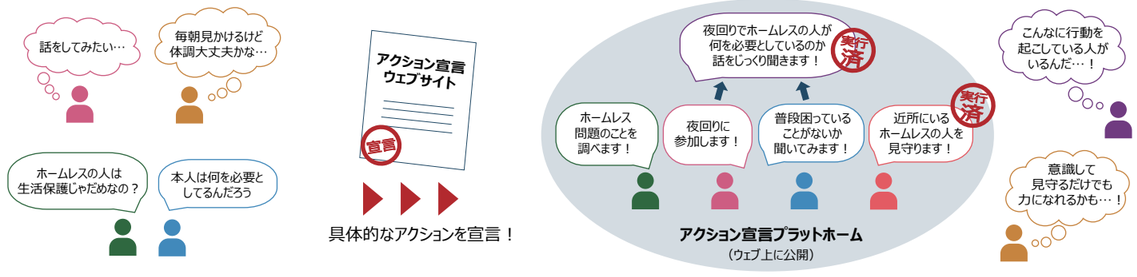
アクション宣言目標

2020名

アクション宣言のしくみ

(現状) 個々ではホームレス問題を気にかけたり考えたりしても、思いが形にならず消えてしまう

(目指す変化) 宣言することで多様なアクションが実現され、それらが社会に共有・発信されることでまた新たなアクションが生まれる



＊2019夏、アクション宣言パイロット版を実施

2019年夏の東京ストリートカウントは「みんなでつくる」をコンセプトに、当日深夜の参加が難しい人もアクション宣言をし、活動を一緒に支えてもらうよう呼びかけました。

その結果、**242名**から**780件**の多様なアクション宣言が集まり、当日調査をする人、それを応援する人のみんなで活動がつくり上げられました！なお調査当日のお疲れさまのドリンクは、宣言をしてくださった方々の寄付(19名、89,000円)によるものです。

アクション宣言ウェブサイトへ

アドボカシー・発信

議会への働きかけ

東京ストリートカウントによって初めて明らかになった深夜の路上の実態は、政策提言などの形にまとめ、議会や行政に届けています。昼夜の人数差などの調査結果だけでなく、これが市民の力で明らかにされたことを重視し、この問題に本気で取り組む東京の姿勢や市民を含めた都市全体でのアプローチに価値を置くことを、具体的な政策内容とともに求めています。

(写真左) 2017年4月 ARCHが都議会議員に政策提言を提出

(写真右) 2017年4月 参議院国土交通委員会にてARCHメンバーの土肥真人が参考人として意見を発表
※画像 http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php

メディアを通じた社会への発信

メディア掲載 **49**回

東京ストリートカウントの活動は、新聞やテレビ、ラジオ、雑誌などのメディアにこれまで49回取り上げられ、4年間を通じて多くの方々に活動や問題を知ってもらうことができました。メディアで知ったのをきっかけにストリートカウントに参加する方も増え、ホームレス問題を考える市民のネットワークが広がっています。

アート × ホームレス

「東京を色とりどりのアイディアで埋めつくす！」

2019年夏はアートを通じたホームレス問題へのアプローチを国際的に展開しているイギリスチームを迎え、アートイベント、国際シンポジウム、東京ストリートカウントの３つの企画を連続イベントとして実施しました。

連続イベントのテーマは、「東京を色とりどりのアイディアで埋めつくす」。東京の市民参加アプローチとイギリスのホームレスの人々によるアートが出会い、市民一人ひとりが問題を考えることから生まれるアイディアやアクションの意志が、カラフルな色でアートに表現されました。

Photo:山友会写真部

△イギリスのホームレス経験者による段ボールアート「ストリート・ポエム」とコラボしたアートイベント。市民のアクション宣言をカラフルに色づけて表現した。

▽東京ストリートカウント当日の明け方、本部にて。ホームレスの人たちとカウントに参加した市民一人ひとりの出会いがひとつの紐アートに。

東京ストリートカウント当日は、調査を終えて本部に帰ってきた参加者みんなで、その晩のホームレスの人たちとの出会いを紐アートにして表現しました。歩いたコースを表す白黒の紐に、出会ったホームレスの人の数だけ自分のカラフルな色の紐を結びつける作業を通して、その晩の体験から感じたことを一人ひとりがゆっくりと思い出し、形にしました。

参加したイギリスチームのメンバーは東京の市民参加アプローチを自分たちの地域に持ち帰り、新たな動きやネットワークが生まれています。

ARCHについて

ARCH(アーチ；Advocacy and Research Centre for Homelessness)は東京オリンピック・パラリンピックの開催決定をきっかけに、2015年10月に設立した市民団体です。ホームレス問題についてのアドボカシー(政策提言)と研究を行うチームで、研究者や学生、支援団体の現場ワーカー、法律家などのプロボノワーカーから構成されています。

いま、世界中のさまざまな都市で、ホームレス問題への市民参加の取り組みが広がっています。見えにくい問題であるからこそ、多くの市民が問題を知り、考え、行動を起こすことが必要です。そして、人が人を大切にし、お互いを支え合うことのできる「やさしい都市」を創ることこそが問題解決の形であると考え、私たちは活動を行っています。

東京ストリートカウント ソーシャルインパクト報告書
2020年2月作成

〈制　作〉 ARCH (Advocacy and Research Centre for Homelessness)

〈連絡先〉 arch.cd.office@gmail.com

〈リンク〉 ARCHウェブサイト
https://www.archomelessness.org/
Twitterアカウント
https://twitter.com/arch_cd

～表紙に込めた想い～
円の大きさは東京ストリートカウント各区の参加者数、 すなわちホームレス問題に対するアクションの大きさを表しています。これらは４年間を通して着実に積み重なってきており、 これから先も増え続けるであろう将来への希望が込められています。

ARCH through Community Design